

向坂逸郎 経済学者。戦前に弾圧を受け、戦後は(日本社会党)左派の理論的支柱で、<三池闘争>の指導者を育成。

さきさかいつろう

八幡製鉄始 1897 = 福岡県大牟田で、三井物産の下級社員の長男に生れる。

日露戦争終 1905 = 8歳 :

満鉄発足 1906 = 9歳 :

明治天皇没 1912 = 15歳 :

八女中学を経て、

21ヶ条要求 1915 = 18歳 :

第五高等学校在学中、河上肇の「貧乏物語」を読んで経済学を志し、

東京帝国大学経済学部に進む。

原敬首相暗殺 1921 = 24歳 : 卒業して経済学部助手となり、

水平社結成 1922 = 25歳 : 九州帝国大学法文学部の経済担当要員として、ドイツに留学、

この間、膨大なマルクス主義文献を集め、

護憲三派圧勝 1924 = 27歳 :

治安維持法 1925 = 28歳 : 帰国とともに九大助教授となり、

円本時代始 1926 = 29歳 : 教授に昇任したが、

共産党事件 1928 = 31歳 : 三・一五事件の余波の思想弾圧によって九大を追われる。

上京して、自ら収集した文献をもとに、改造社の「マルクス=エンゲルス全集」の編集に携わる一方、山川均らと雑誌「労農」に拠り、資本主義論争では「日本資本主義の諸問題」で講座派の山田盛太郎の「日本資本主義分析」を批判し、労農派の理論的指導者となる。

満州事変 1931 = 34歳 :

国際連盟脱退 1933 = 36歳 : 「地代論研究」、

日中戦争始 1937 = 40歳 : 「日本資本主義の諸問題」。人民戦線事件に連座して検挙され、

大政翼賛会 1940 = 43歳 : 出獄後は、翻訳と農業をしながら、

日米開戦 1941 = 44歳 :

1942 = 45歳 :

敗戦 1945 = 48歳 : 敗戦を迎える。直ちに九大に復職し、「資本論」の翻訳に従事しながら、日本社会党の強化をめざし、

新憲法公布 1946 = 49歳 : 「平和革命論」を提唱して、山川均の理論的後継者としての地位を確立、

新憲法施行 1947 = 50歳 : 山川ら労農派の同志とともに「前進」を創刊して、社会党左派を支援、

三大事件 1949 = 52歳 : 「資本論」翻訳の刊行開始。

朝鮮戦争始 1950 = 53歳 : 日本社会党左派と労農派系学者グループを同人とする(社会主義協会)結成に参加、

独立回復 1951 = 54歳 :

国連加盟 1956 = 59歳 : 「資本論」翻訳(全12巻)が完結。

イサカラマ 1958 = 61歳 : 大内兵衛とともに(社会主義協会)の代表となり、没するまで務める。

美智子妃 1959 = 62歳 : 「マルクス経済学の方法」、

安保闘争 1960 = 63歳 : 九大を定年退職。三井三池争議に際して、<向坂教室>によって運動の理論的実践的指導者を育てた。

東京リボルヴ 1964 = 67歳 : 「学ぶということ」「流れに抗して」、マルクス経済学の基本問題。

この間、急速にソ連寄りになって、社会党との関係が困難になり、

全共闘レウ 1969 = 72歳 :

石油ショック 1973 = 76歳 :

角栄金脈辞任 1974 = 77歳 : 社会党右派が反社会主義協会の方針を打ち出して、その存続に苦慮、

JALインチャク 1977 = 80歳 : 「読書は喜び」。

成田衝突 1978 = 81歳 : この年の総会で、社会主義協会は理論研究集団に徹し、政治活動はしないことになる。

ジャンボ機墜落 1985 = 88歳 : 没した。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、